



2022/12/10

No. 100

科学の森ニュース

The University of Tokyo Forests News

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

Contents

- ・ どり亀さん× C.W. ニコルさん…1
- ・ 3人が森林管理技術賞を受賞…2
- ・ ヤマザクラ画像がジャパンサーチに…2
- ・ 田無セミナーハウス貸し出し開始…2
- ・ 科学の森ニュース回顧・Morikara 案内…3
- ・ 四コマ漫画：手ごわい相手…3
- ・ 動植物紹介：リュウキュウサンショウクイ…4
- ・ 本郷・弥生キャンパス内で使用されている演習林産木材…4

どり亀さん× C.W. ニコルさん追悼展

北海道演習林

どり亀さんと高橋延清（北海道演習林第5代林長）東大名誉教授の没後20年の節目と、生前先生と親交が深かったC.W.ニコルさんの追悼として、「どり亀さん× C.W.ニコルさん追悼展 森の心、そして祈り（主催：富良野市博物館、後援：北海道演習林・C.W.ニコル・アファンの森財団）」が7月30日～9月25日に富良野市博物館で開催され、高橋先生の手書き原稿や詩集草稿などが、二人の生い立ちからいろいろなエピソードを交えて展示（写真1）されました。また、共催事業として公開セミナー「東大北海道演習林をめぐる」（8月6日）、シンポジウム「どり亀さん、ニコルさんの森づくりを語る」（9月10日）もあわせて開催され、公開セミナーでは高橋先生が「林分施業法」をひらめいたという西瓜峠（写真2）や森林施業地（写真3）を訪れ、林分施業法と北海道演習林が実践している森林管理を紹介しました。シンポジウム（写真4）では、映像上映や、お二人との親交が深い脚本家の倉本聰さんを交えたトークイベント、尾張敏章林長による講演が行われました。脈々と受け継がれるお二人のめざした森づくりの心に触れられたとの声が様々な場面で聞かれました。



写真1:「どり亀さん× C.W.ニコルさん追悼展 森の心、そして祈り」



写真2: 高橋先生が「林分施業法」をひらめいたという西瓜峠



写真3: 森林施業地での解説



写真4: シンポジウム（尾張林長による講演）

「科学の森ニュース」のバックナンバーは東京大学演習林のウェブサイトから閲覧できます。

<https://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>

技術職員 3 名が森林管理技術賞を受賞

企画部

9月21日に開催された全国大学演習林協議会秋季総会において、第24回森林管理技術賞の授賞式がありました。本学からは北海道演習林の犬飼浩さんが東京大学演習林における森林管理及び技術組織運営への多大な貢献により「特別功労賞」、同じく北海道演習林の小池征寛さんが林分施業法に基づく天然林管理技術の可視化・言語化と継承・普及に関する貢献により「技術貢献賞」、同じく北海道演習林の小川瞳さんが北方針葉樹のコンテナ苗生産に関する学術的・社会的貢献により「学術貢献賞」を受賞しました。対面とオンラインのハイブリット形式により挙行された授賞式では、対面出席の小池さんは久保田全演協会長から、オンライン出席の犬飼さんと小川さんは田中北海道演習林長補佐からそれぞれ賞状と記念品が授与されました。



上段左から：久保田全演協会長、小池さん
下段左から：田中北海道演習林長補佐、犬飼さん、小川さん

快適になったセミナーハウスの貸出開始

田無演習林

2022年1月に耐震や内装の工事が完了したセミナーハウス（旧・田無演習林庁舎）ですが、10月に貸出内規を整備したことで、規則にのっ

って学内外からのご利用の受入れが可能になりました。大学の実習やセミナー、学術集会、研修、公益的な活動などに使えます。講義室および講義準備室には、男女更衣室や個人用ロッカー、可搬式のスクリーン、プロジェクターなど授業や実習利用に便利な設備があります。またWifi環境を整備しており、インターネット接続がご利用になれます。講義室のほかには、会議室、工作室などがあり、それぞれの用途にあわせて整備を進めていく予定です。利用手続については田無演習林ウェブサイトをご覧ください。



講義室での研修風景（ペドロロジー学会）

ジャパンサーチ、公式 Instagram に千葉演の植物標本画像を使用

千葉演習林

千葉演習林では、当演習林が所蔵している維管束植物の押し葉標本をデジタル画像化してウェブサイト公表しており、オンラインでどなたでも閲覧できるようにしています。このたび、その中のヤマザクラ標本画像をジャパンサーチ公式 Instagram で使用していただきました。ジャパンサーチは、日本の様々なデジタルアーカイブと連携して多様なコンテンツを分野横断的に検索・閲覧・活用できるプラットフォームです。デジタル情報資源の活用を進める国の取り組みとして国会図書館によって運営されています。公式 Instagram は下記 QR コードからご覧ください。



Instagram で紹介されたヤマザクラ標本画像

クローズ アップ

科学の森ニュース 100号の歩み、 そして「MORIKARA」へ

社会連携委員会

「科学の森ニュース」は、記念すべき第100号となりました。本誌が創刊したのは、今から22年前の2000年12月のことでした。大学演習林は森林に関わる教育と研究のために設立されていますが、次第に、社会との連携も期待されるようになりました。そうした中で、東京大学演習林の活動をわかりやすく多くの方々に伝えるものとして、本誌は発行されてきました。

これまで発行されたものを見返してみると、東京大学演習林の出来事を手軽に振り返ることができる資料として重宝するのではないかと思います。例えば、4研究室体制になったこと（第4号、2001年）、東京大学演習林のシンボルマークができたこと（第19号、2003年）、各地方演習林のシンボルカラーが決まったこと（第40号、2007年）、一部の地方演習林で名称変更があったこと（第54号、2011年）などがあります。

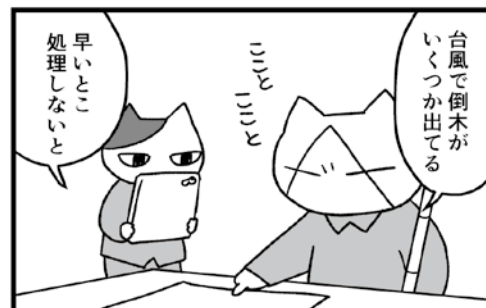
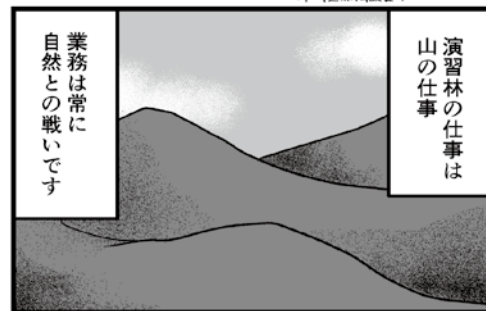
本誌では、演習林の活動だけではなく、森を身近に感じていただけるような記事も掲載してきました。第7号（2001年）でシリーズとして樹芸研究所の植物を紹介する「温室熱帯植物紹介」が始まり、第26号（2005年）からは各地方演習林で見られる植物や動物を紹介してきました。大好評の4コマ漫画は、第87号（2019年）から連載しています。



創刊号から99号まで

さて、「科学の森ニュース」は本号をもって、最終号となります。ただいま、これに変わる東京大学演習林の広報誌を準備中です。新しい広報誌のタイトルは、「MORIKARA(もりから)」。大学の森から、広く社会に向けてさまざまな情報を届ける媒体にしていきたいと思えます。MORIKARAは年2回の発行で、創刊号は2023年5月発行を予定していますので、ぜひご期待ください。

演習林のおしごと 014



リュウキュウサンショウクイ

サンショウクイ科サンショウクイ属 学名：*Pericrocotus tegimae*

リュウキュウサンショウクイは小型の鳥で、地上にはほとんど降りず、普段は林の上部で過ごしています。鳴き声はよく通り「ヒリリリ、ヒリリリ」と聞こえます。これがことわざの「山椒は小粒でもピリリと辛い」を連想させることから、サンショウクイと名付けられたとされています。実際の食性は動物食であり、昆虫類やクモ等を食べるので、山椒を食べることはありません。

名前のおり沖縄県や九州南部のみ留鳥として生息していましたが、最近では北上してきており、樹芸研究所でも2021年度に目撃されました。以降は春から秋にかけて姿や鳴き声が確認できます。



梢から降りてきたリュウキュウサンショウクイ

名所・名物案内

本郷・弥生キャンパス内で
使用されている演習林産木材

教育・社会連携センター

演習林で行われている持続可能な木材生産の現場から生産される木材の一部は、本郷や弥生のキャンパス内建物などでもご利用いただいております。最近の例では、昨年度から改修工事が行われている工学部5号館で内装に木材をふんだんに使って改装され、1階にある51講義室では、講義台に秩父演習林産木材(ミズナラ、ブナ、ウダイカンバ、スギ)が使用されました。これから、学生達が勉学に励むための一助となっていくことと思います。このほか、本郷キャンパスにある学生支援センターの看板に千葉演習林のケヤキが使用され、学生達が充実したキャンパスライフを送ることができるように見守っています。農学生命科学研究科のある弥生キャンパスでは、北海道演習林産イチイが農正門横にある農正門復元の由来が書かれた銘板に、北海道演習林産ウダイカンバが農学生命科学図書館・3号館学生サービスセンターや大講義室等の壁・演習林研究室の椅子とテーブルに使用されていて、気軽に木材に触れることができます。今後、キャンパス内で演習林材の利用を促進し、「UTokyo Compass」で行動計画の柱の一つとして位置付けられたグリーン・トランスフォーメーション(GX)に挑戦します。



工学部5号館51講義室の講義台

